

國朝大業廣記

四十四
之五

庫文閣内		和
一四九函	三二九	書
二一	七一	類
架	冊	號

91	
内閣文庫	番號和 31291
冊數	71 (22)
函號	149 110

卷之五



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



備
: 91

50

14

分

大嘗慶賀之日

備前氏

十一月

四月

○ 三月 有吉記 在子城惣推 破 下 天守

○ 三月 有吉記 在子城惣推 破 下 天守

○ 三月 有吉記 在子城惣推 破 下 天守

○ 三月 有吉記 在子城惣推 破 下 天守

○ 三月 有吉記 在子城惣推 破 下 天守

國朝大業廣記卷之四十四

天正十一癸未年

四月

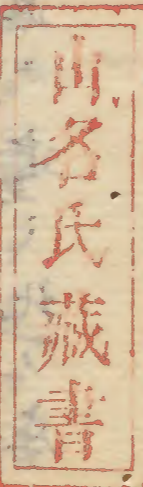
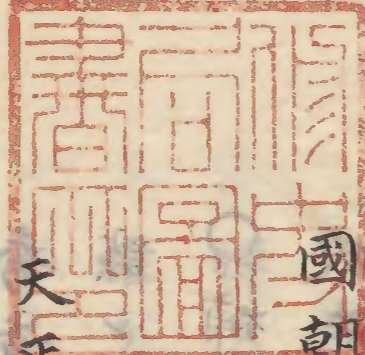
三日 秀吉北ノ庄ノ城惣構ヲ破ト云々

四日 黎明北ノ庄本城陥ル城中五重ノ天守

如シ勝家二百許リニテ取籠ル无キ所狭ク味方友

道具ニテ手負有ル可キヲ察シ秀吉諸軍ヨリ究竟

ノ士ヲ撰テ天守ノ内へ太刀ヲ拔テ攻入シム勝家カ



猛兵七度マテ切テ出テ相戦フ午ノ刻天守五重目
ニ於テ勝家享年五十七歳ニシテ生害其妻信長ノ妹及シ
即從五十三人并幸若太夫殉死ス秀吉直ニ加州へ
祭向アリ

將軍家譜

○補ニ勝家ハ府中ニ到リ前田父子ニ逢テ羊来
ノ勞ヲ謝メ北ノ庄ニ歸リ兵士ヲ呼聚メ既ニメ
秀吉早ク府城ニ至リ戎巖ニ直ニ入リ前田ト對
談シ湯漬ヲ求テ之ヲ食シ一笑ノ出ツ

○補同上ニ秀吉軍ヲ進テ北ノ庄ニ到リ堀久太郎秀
政先列タリ軍士ニ制令ヲ示メ直ニ進ニ北ノ庄

ノ城ヲ圍テ之ヲ燒ク秀吉愛宕山ニ登テ之ヲ指
揮ス城兵之ヲ防ク火炮頻ニ發シ甲ヲ貫キ曹ヲ
推ケリ然レ城中氣衰ヘ勢竭キ盛政及ニ勝家カ
養子柴田權六秀吉ノ兵ノ為ニ囚ヘラレ盛政軍
敗レテ後加賀ニ逃ントスレモ逃レ得ス今斯ノ
如シ秀吉ハ山口甚兵衛副田甚左衛門ヲメ之ヲ
監セシム○北ノ庄城中ニテハ權六盛政カ囚ヘ
ラレト聞テ弥勢カヲ失ニ涉鯉轍軒ノ思ヲ成
シ勝家族從ヲ聚テ大ニ宴シ酒盃ヲ指テ告ニハ
吾ハ被藤吉猿面郎カ為ニ敗北ヲ取リ烈怒餘ッ

リ深怨甚ク多シ吾明日黄泉ノ客ト成ント欲
ス故ニ今酒ヲ飲ミ以テ人間ノ事ヲ終ラ既ニ
獻州交錯事畢テ勝家等男女三十餘人皆自盡シ
城ニ亦燒失シ北國平鎮セリ
○三七信孝ノ岐阜ノ城ヲハ北畠信雄卿攻詰ル既
ニ柴田敗亡ノ由リ例テ美濃伊勢ノ信孝方皆降臨
シ岐阜ノ城ヨリ岡本下野守宗憲并神戸侍四百八
十人信孝ヲ奔テ退散シ殘ル者僅ニ廿七人ナリ信
孝遂ニ城ヲ避テ奔ル

○補同上秀吉加賀尾山ニ到リ前田利家ヲメ之ヲ

守シム利家ハ勝家カ共黨ナリ然レ曾テ秀吉ト
志ヲ通ス故ニ斯ノ如シ越前加賀ニ郡ス以テ丹
羽長秀ニ加工越前守トス是今般ノ功勞ニ依テ
ナリ
○或曰ク勢州嶺ノ城將滝川儀大夫百日餘リ堅
固ニ城郭ヲ拒キ守ルト雖ニ糧禾絶テ為方無ク
寄手ト和ヲ整ヘ城ヲ避テ長嶋ニ奔ル林ノ城主
林次郎兵衛堅固ニ拒キ守ルカ遂ニ噯ニ成テ
秀吉ニ屬スル處ニ但馬ニテ勅忍ノ來邑ヲ渠ニ
賜ト云

或秘記ニ 神君小栗又一忠政ヲ江州ニ遣シ秀
吉ヲ勞問シ躬ツカラ兵ヲ率ヒ濱松ヲ奪シ玉ヲ
處ニ勝家敗亡スト聞テ濱松ニ歸リ玉ヲト云々
是ハ秀吉勝家私ノ恨ニ因テ兵革起ルル雖モ秀
吉謀テ信雄信孝ノ争ニ託ス爰ヲ以テ信雄ヨリ
神君ノ御出馬ヲ催シ玉ヲ處也

○廿八日 神君濱松ヨリ甲冑ニ至リ國制ヲ沙汰
シ玉ヲ嚮ニ信玄ノ小人頭萩原甚之丞昌友窪田助
之丞正勝中村勘六安忠石坂勘兵衛森通志村又右
兼門真時原半左兼門正之山本弥右兼門忠房河野

傳之丞通重ヲ濱松ニ召テ井伊直政ヲ以テ甲州ト
隣國ノ境目道筋仕置ヲ沙汰シ境目ノ岩ニハ此内
一人宛横目トメ加リ他國ノ事マテモ関届密ニ言
上スヘシ去年甲冑先方ノ士早速御家人ニ列セテ
ル處ニ悉ク忠ヲ勵ス故ハ奉遠御譜代ノ健士ニ續
キ御哀憐ヲ施ルヘキ旨ヲ諭サレ信玄ノ時ハ如ク
堀目ノ手置スヘキ由御朱印ヲ賜フ此時マテ小人
二百四十人其頭右ノ八人ナリ

○廿九日 三七信孝尾陽野間内海ニ於テ自殺享
歲廿六 神戶ノ士新屬ノ近臣太田新右兼門必錯シ神

戸ノ鍛冶石堂但馬國助カ子小林甚兵衛共ニ殉
死ス信雄昆弟ノ好ミテ中川勘右衛門雄忠ヲ
遺シ信孝ニ死ヲ勸ト云々吾國ニ既ニ之ヲ案
自セリト云テ即チ自殺スト云々

○補同上秀吉又美濃ノ國ニ赴キ岐阜城ヲ圍テ教
重三七信孝ハ勝家ヲ以テ後援トメ既ニ滅ヘリ
故ニ力盡テ相從フ者モ甚ク少シ信雄ハ尾張ノ兵
ヲ率テ同ク岐阜ヲ圍ミ人ヲメ信孝ヲ誘シメ告
ニハ尾張ニ移居セラルヘシト是ニ於テ信孝城
ヲ出テ舩ニ乘テ内海ニ赴ク

五月小
○五日

○補同上秀吉江州坂本ニ歸リ諸將軍士皆端午ノ
賀ヲ告ク此月淺野弥兵衛長政ヲメ佐久間盛政
柴田權六ヲ囚ヘ洛ニ列テ之ヲ六條河原ニ斬シ
ム刑戮ニ臨ニ及テ盛政ハ相人ノ中ニ於テ大ニ
呼リ告ニハ吾中川清秀ヲ擊殺セシ後勝家ノ言
及テ所ニ從テ軍ヲ以テ若速ニ退ハ即チ豈ニ此ニ
及レヤ戦若シ勝ハ秀吉ヲ殺シテ又何ソ是ニ異
ント衆皆之ヲ驚キ稱ス既ニ盛政權六皆殺戮

セラル

○上旬 神居甲州尊躰寺、旅館ニシテ井伊兵部直
改カ輔翼素ハ馬場美濃氏勝カ属士廣瀬美濃昌房
三科肥前刑幸ヲ召テ信玄謙信信品川中嶋軍ノ驛
ヲ圖ニ成シメ御覽アリ

○小幡景憲カ説ニ 神居ノ曰ク信玄弓箭五ヲ
條ノ秘奥アル由第一回働第二立競ハ味方大庄
候ニテ報ス第三敵國ハ深働ノ日数ヲ歴ヘキ時
五回ニ一堆第四天地入三ツノ備第五剛敵ニ遭
フ時大正大奇ノ格之ヲ川中嶋ニテ信玄用ルト

○見ヘタリ至極ノ理ニメ庸將ハ通曉スヘカラサ
之旨 命アリ廣瀬三科カ曰ク川中嶋在陣ニハ
謙信モ五回ニ一堆ヲ用ルト云々又 御説ニハ
敵亦味方ノ如シハ大正大奇ニ非メハ奈何ノ勝
トテ得ント宣フ誠ニ無道明察ノ御批判ノ由兩
人ノヲ歎美スト云々

○或曰ク甲州御在留中去年北條ニ属シ忽チ
神居降ル真田安房守保科越前守且ツ 神居
ニ属ス又北條方ト成リ再ニ麾下ニ帰服スル小
笠原喜三郎貞慶諏訪安藝守頼忠等群衆ノ拜謁

交京書三行員... 附考ノ云ク貞慶去年謀叛...

○附考ノ云ク貞慶去年謀叛、此時帰服ス或ハ叛
キ或ハ服スルト説十三年ハ件ニ在リ

○七日 秀吉北國ヨリ江州安土ニ帰陣ス

○十日 神君甲州ヨリ濱松へ御帰城アリ

○廿一日 石川伯耆守教正ヲ以テ秀吉柴田退

治ヲ賀メ初花ノ壺ヲ贈ラル此壺ハ參州長沢ノ浪

客松平清藏入道念誓カ此度 神君へ獻スル處ニ

念誓竅初ハ清大夫氏云へリ 松平兵庫頭勝宗カ庶

子タリト雖氏故アリテ民間ニ住居ス

○廿二日 左近衛少將羽柴秀吉參議從四位下

叙任ス

六月 大...

○六日 秀吉頃日江州坂本ノ城ニ寓居シ三軍ノ

旁ヲ犒メ志津カ嶽ニテ魁出ノ七人ニ感牒ヲ授ケ

且ツ恩祿ヲ宛行フ中ニ就ク福嶋市松正則後左兼門大夫

也是ハ秀吉ノ親族タル故ハ五千石而加藤脇坂平野

片桐糟屋ハ三千石宛ヲ授ク櫻井左吉以下恩祿

浴タル族多ク云ハ

○中甸勢州長嶋ノ城主瀧川左近將監一益武力盡
テ北伊勢西郡ヲ避テ長嶋ヲ退去ス秀吉江州南郡
ニ於テ五千石懸命ノ地トシテ一益ニ授ク一益カ甥
儀太夫并彦次郎法忠ニ別ニ食禄ヲ授ケ秀吉ノ
直臣トス三七信孝亡テ後秀吉奸計ヲ以テ北畠信
雄ハ關地多ク寄附ス伊賀伊勢尾張三ヶ國ノ領主
トシ御本所ト稱シ之ヲ崇敬ス信雄勢州松ヶ嶋ノ
城ヨリ長嶋ノ城ニ移テ松ヶ嶋ヲハ津川玄蕃先義
冬薦野ノ城ヲハ天野周防守雄光神戶ノ城ヲハ林
典五郎家號ト改ム嶺ノ城ヲハ佐久間駿河守正勝ニ

典ノ織田上野介信兼ヲハ安濃津ノ城ニ住セシム
秀吉濃高岐阜ノ城ヲ池田紀伊守信輝入道勝入ニ
授ケ則チ嫡子庄九郎之助之ニ任シ標州數郡ハ元
ノ如ク領ス越前若狹加賀半國ヲ丹羽五郎左衛門
長秀ヲ封シ但シ若狹ノ内佐柳ノ城ニ木村ハ隼人
高濱ノ城ニ堀尾茂助越前ノ内敦賀ニ蜂屋出羽守
頼隆在任ス加州河北石川二郡ハ能登國主前田利
家ニ授ク是旣久間玄蕃カ關地トシ其外加恩得替
増封ノ族多ト云

○十七日三駿州三枚橋ノ城ニ大松平周防守康親

享年六十三歳ニ卒去ス其子右近丞康重家祿ヲ
襲フ又周防守ト稱シ七父ニ芳ケル剛強クノ譜代
ノ功臣岡田行右衛門元次石川善太夫昌隆都筑助
太夫重次之ヲ輔佐スルハ其功甚大也
○十一月 去年ヨリ上杉景勝ノ押領スル信州川
中嶋四郡征伐トシテ神居来月六日御進發アルハ
并由御分國ノ觸テル且ツ神居第二ノ姫居當月
廿日濱松ノ城ヲ出興アリテ相州小田原ニ至テ北

條氏直ニ嫁聚アルヘシト云ヒ是ニ依テ幕下ノ諸
將大略濱松ニ群衆スルハ未ダ下ニ
○近衛前攝政前久公當春ヨリ今以テ濱松ニ在留
ル處ニ神居頃日猿樂ヲ催シ饗應シ玉テ浪客今川
上總从氏真入道宗圓侍主セヨリト云ヒ其ノ事
○廿日 暴雨止メテ東海道ノ川ニ洪溢ス陸地ニ
船ヲ浮ヘル艤ナシテ姫居ハ出駕延滞セシメ重
北條家ニ通達シ玉テ良辰ニ擇ビ由原ニ入興其
路次中酒井左衛門尉忠次島居秀右衛門元忠平岩
七之助親吉奉多彦次郎忠次同跡公即正信西郷孫

九郎家負右川孫四郎重政降屋半之座故半之座渡
 邊源藏及石川福阿弥等扈從少田原至酒
 井忠次御樂松田尾張憲秀伊勢備中守定宗渡
 不氏直一文字ノ刀貞宗人脇差ヲ忠次ニ授ク此姫
 君母堂ハ鶉殿長照娘タル故ハ鶉殿大隅長次且ツ
 矢部四郎右衛門等陪從小田原止不氏直没後
 池田三左衛門輝政ノ室ト成リ數子ヲ産玉ノ良
 照院殿是ナリ信州
 ○廿一日神君信州ハ御首途来月十二日ヲ延
 引ノ由觸テ

八月伏
 ○六日秀吉使津田左馬允濱松ノ城ニ登リ
 神君ハ不動國行名刀贈ラレ是初花茶壺ヲ
 贈リ玉ヒシ返酬
 ○十二日信州ハノ御祭向故人参リテ送御出馬
 ○廿四日神君濱松ヲ御首途アリ是北條家和
 融上表裡ノ姦計止凶信及佐久郡ノ一揆殘黨
 上野ノ地ヨリ密糧食等ヲ送リ籠城ノ助力ヲ
 成ラ以テ吾兵今成功ヲ遂サ故ハ御出馬

永九歲於御時故... 下問...
廠... 妻... 高坂彈正... 惣次
郎... 秋葉山加納坊大藏藤平郎長安... 以...
... 所勞故... 來... 後... 越後... 隱...
○附考... 云... 是月真田安房守昌幸... 上田城... 賜
... 九月... 太... 信州... 尾... 味... 城... 壓
○八日... 神居... 麾下... 笠原右近大夫貞慶... 其兵三
千信州深志ヲ祭シ敵方川中嶋... 尾味... 城ヲ壓

上猿カ馬場... 進... 清野左... 門... 佐... 龍王
... 城ヲ攻... 上杉景勝... 其臣斯波田... 因幡治
長... 叛... 事ヲ征... 爲... 斯波田... 祭... 向... 川中嶋
... 地士催促... 依... 彼地... 至... 故... 貞慶... 其虛... 乘
... 心處... 清野カ留守祖父清壽軒敵... 峠ヲ越セ
... 微勢... 防戦... 叶... 城ヨリ出テ山
手ヲ取... 兵ヲ隱シ多勢ハ... 成... 云...
○十一日... 小笠原貞慶九隊... 内三隊... 後殿...
... 引取... 最... 戦... 持テ備嚴... 然... 清壽軒老
功... 故... 僅... 四十騎... 微勢... 峠... 雖... 追慕...

侍五六騎歩卒少、討捕ル家初ニ村上源五國清方
援ヲ求ル國清病下稱シ救テ無シ後日ニ景勝村
上ヲ戒テ曰ク亡父義清カ憤ラ散ルヘキ為ニ去年
押領スル處ハ川中嶋ノ鎮衛トシ海津ノ城ニ居シ
ムル處ニ未鍊ノ心底樞要ノ城ニ置ルカラストテ
國清ヲ春日山ニ召寄上條民部少輔義春ヲ以テ貝
津ノ城代トスト云ク以テ十月五日更科郡内一邑ヲ
附考ノ云ク十三日神君ノ弟五子万千代君遠
洲濱松城ニ生レ玉ヌ母公ハ秋山越前守虎康カ
姫ニノ諱ハ都摩下山ト号ス虎康ハ其先 清和

帝七世ノ孫新羅三郎義光ヨリ五世秋山太郎光
朝ニ其始祖ニテ世々甲州ノ豪族也光朝ヨリ十
九世新左衛門信任二子アリ長ヲ伯耆守信友ハ
濃洲岩村ノ城ヲ知タリ次ハ平十郎信藤共ニ武
田信玄ニ仕テ累年戦功ヲ立ツ虎康ハ信藤第一
子ナリ武田滅スルニ及テ神君ニ奉仕ス今ノ
麾下ノ士秋山十右衛門此家ナリ母公十六歳ノ
時神君ノ左右ニ近侍ニ万千代君ヲ産ス初メ
武田ノ豫穴山玄蕃信君ニ神君ニ屬ヌ志アリ不
幸ニメ後無シ神君万千代君ヲ其家ヲ曾氏

武田ヲ継シメ信吉ト名ツク十九年十月六日母
 公其未地下總葛飾郡小金ノ邑ニ病卒シ郡ノ奉
 上教寄ニ葬ル蓋シ秋山氏世ニ法華宗ニ信スル
 以テ身延山ノ檀越トナル母公ノ法名ハ妙真
 院日上ト号シ其墳上ニ一松樹アリ土人呼テ曰
 上松ト云フ信吉君之ヲ常州水戸ニ封セラル卒
 後嗣無ク神君ノ御庶子頼房君ヲメ水戸繁封
 託玉是ニ於テ頼房君ハ信吉ノ為ニ淨鑑院ヲ
 創立シ以テ香火ヲ奉セシメ後年水戸侯光國卿
 妙真院ヲ改葬シ石碑ノ銘文斯ノ如ト云

○廿二日 松平源四郎親常卒ス 初右馬助是ハ長
 沢ノ松平兵庫頭一忠ヲ弟右馬助宗忠カ子ナリ

十月大

- 二日 神君甲州ヨリ駿陽江尻ヲ入歸御
- 四日 駿及長久保 一名與國寺 城郭經營ヲ沙汰スベ
- 由松平主殿助ニ命セテ被地ヲ赴ク然テ當
- 城ヲ牧野右馬允康成ニ賜ク其臣稻垣平右衛門長
- 茂ヲ以テ守シ
- 五日 神君正四位下ニ叙セラル位記ヲ帶シ

勅使濱松下向是日於天 於神居駿州より疾く御
歸城なりし御頂戴ト云々

○七日神居右近衛権中将任詔玉不

○廿五日三羽柴筑前守秀吉ヨリ神居へ檄書ヲ

送ル

○二返甲兵衛御城ノ事ヨリ一返中入城仍修居

手重兵衛大夫任付由外要領多事又園兵衛

守子任付由御城ノ事ヨリ一返中入城仍修居

手重兵衛大夫任付由外要領多事又園兵衛

守子任付由御城ノ事ヨリ一返中入城仍修居

手重兵衛大夫任付由外要領多事又園兵衛

守子任付由御城ノ事ヨリ一返中入城仍修居

手重兵衛大夫任付由外要領多事又園兵衛

守子任付由御城ノ事ヨリ一返中入城仍修居

手重兵衛大夫任付由外要領多事又園兵衛

守子任付由御城ノ事ヨリ一返中入城仍修居

手重兵衛大夫任付由外要領多事又園兵衛

守子任付由御城ノ事ヨリ一返中入城仍修居

手重兵衛大夫任付由外要領多事又園兵衛

守子任付由御城ノ事ヨリ一返中入城仍修居

手重兵衛大夫任付由外要領多事又園兵衛

守子任付由御城ノ事ヨリ一返中入城仍修居

手重兵衛大夫任付由外要領多事又園兵衛

守子任付由御城ノ事ヨリ一返中入城仍修居

○十二月四日、歸御（此條略）
○西山（右末門）昌俊御使トメ、越中國主佐、内藏
助成改カ許ニ赴ク。○駿州江尻ノ城ヲ天野三郎兵
部康景ニ賜リ、先城主沓山勝千代早世ニ依テナリ
○濃州苗木ノ舊主遠山久兵衛友忠父子秀吉ニ属
スル處ニ森武藏守長可カ部下トセラレ、遠山怒テ
濱松ニ来テ、神居ニ仕ル（此時迄ハ苗木ヲ）。○竹尾
平右衛門カ子四郎兵衛十一歳ニテ、神居ノ近臣
ニ列ス。○本多豊後守康重カ娘、鈞命ニ因テ諏訪
小太郎頼永ニ嫁ス。○城小三郎（松平龜千）ハ尊翰ヲ

賜ト云々。○豊臣秀吉、熟按メ洛陽洛外ハ海岸ニ遠
ク殊ニ六十餘州ノ侯伯来リ聚ラシ、時ニ具亭宅ト
スヘキ土地ナラサルヲ以テ、攝州大坂ノ城ヲ經治
ス。今既、帰服スル處十餘州ノ人夫ヲ聚メ、海陸ヨ
リ大石巨杙ヲ運送シ、年ヲ逐テ大厦高樓金銀ヲ鏤
メ造畢メ、遂ニ四海一統メ國主郡長皆大坂ハ奉勤
シ、築地ヲ接ハ簷ス、連子午門万戸金城ノ周回ヲ圍
繞スト云々。○堀太郎左衛門秀重享年七十五歳ニ
卒ス。是ハ左衛門督秀治カ祖翁ナリ。其ハ其子
補考メ云ク、此年高木九助康正致仕メ、其子甚左

新門正綱一家督ヲ賜リ歩卒五十人ヲ領テ武州
忍城ヲ成セラル下在ヲ按ニ此時忍城ハ北條氏
越ノ管内ヨリ伊豆相摸ヲ越テ成入キ様ナ此
説誤ナクハシ然氏後考ニ具ク余知ク風田ノ國
○東海島安ノ由ニシテ人國ニ據身ヨリ大氣高
大日ヨリ殊武藝委ニ年々盛天大氣高新金
清兵衛ノ神在真休務依時人城ノ様ノ影射
年名ノ内ヨリノ神ノ神ノ神ノ神ノ神ノ神ノ神
ノ神ノ神ノ神ノ神ノ神ノ神ノ神ノ神ノ神ノ神
○是ノ由ニシテ神ノ神ノ神ノ神ノ神ノ神ノ神ノ神
ノ神ノ神ノ神ノ神ノ神ノ神ノ神ノ神ノ神ノ神

國朝大業廣記卷之四十五

天正十二甲申年

今茲季春孟夏ノ間尾ノ羽黒長久手ノ大
捷ハ四戰紀聞ニ詳ナリ爰ヲ以テ今省畧

正月小

○元日 神后駿府ノ城ニ於テ家門譜代ノ臣且ッ

旗本ノ健士拜趨以賀ヲ述

○二日 御領知五州ノ將士是所謂御禮夜陰ニ

謡曲恒例ノ如シ

○織田信長ノ嫡孫三法師後岐阜中納言秀信 當時江

州安土舊城ノ跡ニ在營アリ大小名諸士群衆シ

テ歳首ヲ賀シ又其輔翼北畠中將信雄卿ノ寓館

ニ赴キ祝祠ヲ述ル然ルニ羽柴參議秀吉計策ニ

依テ種々巷説競ニ起ル是ハ秀吉潛奪ノ情益熾

ニメ信雄ヨリ兵ヲ起サセテ止ムコトヲ得サ

ルニ託シ鋒楯ニ及ハシ企色ニ流言ヲ成サシム

ル所果メ信雄愚昧ニメ其調略ニ陥リ巷説ヲ信

シ秀吉ヲ憎ム及フ秀吉態ト信雄ヲ恨ムト称

シ江島坂本ノ城ニ歸リ信雄ハ新年ヲ賀スルニ

及ハス信雄ニ亦勢品長嶋ノ歸城アリケレハ織

田ノ舊將双方ヲ者メ圍城寺ノ金堂ニ於テ信雄

秀吉和睦會盟アルヘキ旨治定ス然ルニ秀吉其

前宵天津ノ旅店ヘ信雄ノ元老尾洲星崎ノ城主

岡田長門守重善此時ハ重吉ニ作ル勢品松ヶ嶋ノ城主津

川玄蕃元義冬尾州新安賀ノ城主浅井多宮九時

歳十七滝川三郎兵衛勝雅ヲ招キ密語良久シテ秀

吉ニ仕ヘハ其賞禄厚カニシテ其盟ヲ其旨趣ノ

起ル處ハ譬ヘハ滝川ハ義ヲ守リ信雄ニ叛カス

に残ル三老ハ必盟約スヘシ然テハ勝雅必ス信
雄ニ其叛心ヲ告ヘキ間三臣忽死就ヘシ是鉾
ニ血塗スル彼干城ヲ失ハセシモ人敢万一四臣
一列ニ吾ニ属セハ尚幸ノ甚キ處ナリト謀計ヲ
竭シ斯ノ如其異心ヲ勸メ盟ヲ乞フ果メ瀧川丹心
ヲ愛セストイヘニ態ト信容ノ鮮ヲ顯ハシ三臣
ト共ニ連署メ血判ヲ成シ翌日三井寺金堂ニ於
テ信雄秀吉會盟ノ前ニ此事ヲ告ルユハ信雄大
ニ禍ノ忽起ラント疑ニ其席ヲ去テ鏡鑑ト云フ
驪ノ駿足ニ策ヲ揚テ即日長嶋ノ城ニ歸ル彼馬

忽息絶テ死スト云ニ信雄是ヨリ干戈ヲ起サン
トヲ欲シ其企止ス時ニ三臣ハ勝雅カ告ルトヲ
知スメ長嶋ニ行テ利害ヲ説テ其企ヲ諫ル所信
雄ノ曰秀吉ハ先公ノ奴僕ナリ今吾渠ヲ主君ト
為シテ後世ノ瑕瑾ナラズヤ救テ徳川家ニ請
テ雌雄ヲ決セハ秀吉假令良將カ謀ヲ成スル
徳川ハ英雄向テ可敵ナカラシ汝等モ宜シク軍
功ヲ竭スルハシト云ニ三臣口大嚙シテ退ク
○或曰信雄亦三臣ヲ誅セバテ企テ其業ヲ
漏サラントヲ欲シ屋上ニ鳩ハ子生ス自身

是ヲ取ント欲シ土方勅兵部此時彦三郎
飯田半兵衛森勘解由此時源三郎三人ヲ推方
屋上ニ至テ曰時節ヲ見合セ下知ス入キ
間飯田ハ長門守ヲ誅スベシ津川登ハ土方
討ヘシ浅井ヲハ森是ヲ斬ヘキ旨ヲ命スル
所土方達テ岡田カ討テ望メリ岡田ハ大
剛ノ士タルニ飯田敢テ許諾セズ然レモ
屋上タルニ其声ノ他ハ聞ヘン其ヲ恐レ
殊ニ信雄ノ詞ヲ盡シ諭シ去スニ飯田兼
服ノ長門守カ討テ土方ニ讓ル勅兵部ハ

是ヨリ短キ脇差ヲ帶スルハ岡田ヲ組
討ニセシガタメナリ然レモ長門守病ト称
シ蟄居シケルニ三臣ヲ誅戮ノ事空シク
日數ヲ歴ルト云々此岡田長門守ハ先年小
豆坂ニテ七奉鑑公一負助右衛門善教カ子
六十ナリ浅井多宮丸ハ新八郎カ嫡子タルニ
渠弱齡トイヘモ信雄ノ長臣トモ津川ハ武
○下衛義統後四位下治部三男ニ曰天姓氏實
歷トタリ其妻ハ北富具教卿ノ娘ト云々
○上月二月

○上旬、神君酒井河内守重忠ヲ長嶋ニ遣シ信
雄ニ密旨ヲ達セテ以テ諸人其故ヲ知不ク下云

○十日、岡部弥次郎長盛ノ次郎右松門正綱
享年四十二歳ニテ去冬歿スルニ其遺領七十

六十貫文ヲ相違ナク長盛ニ賜テ
長盛時ニ十七歳
後内膳正ニ任ス

○廿七日、神君参議役三位
任叙シテ

三月、小...

○朔日、長沢ノ松平念誓ニ尊簡ヲ賜テ是去年

初花ノ壺茶入りヲ獻スルニ此節ノ詞ニ茶

壺ト云ヘリ

○此ノ以、初花ノ壺ノ所持指ニ、條那妙ヤ...

○此ノ知、初花ノ壺ノ所持指ニ、條那妙ヤ...

○此ノ右子ノ孫、此ノ壺ノ所持指ニ、條那妙ヤ...

○此ノ三月、初花ノ壺ノ所持指ニ、條那妙ヤ...

○此ノ念誓、初花ノ壺ノ所持指ニ、條那妙ヤ...

○此ノ免許、初花ノ壺ノ所持指ニ、條那妙ヤ...

○此ノ私田、初花ノ壺ノ所持指ニ、條那妙ヤ...

○此ノ長沢、初花ノ壺ノ所持指ニ、條那妙ヤ...

○ 上祖稅ヲ沙汰ス其嫡男清藏親重ハ私田ヲ耕
 以長沢ニ寓居シ藏酒ノ兩役ヲ免許アリテ
 ○ 即祖父ノ名ヲ冒シ念誓ト改メ高祖公ノ
 御朱印ヲ賜リ其子孫長沢ノ土呂村ニ住ス
 親重二男清左衛門親正ハ父カ跡役ヲ襲テ
 ○ 台徳公ノ時遠及中泉邊ノ代官職トメ其祿
 五百石ヲ賜フ又羽品延沢領銀山共ニ支配
 ○ 是則清次郎正勝
 カ高祖父ナリ
 ○ 二日 織田信雄ノ元老三輩ノ内岡田長門守
 重善ハ此程卷説盛ニメ死ヲ賜フハキ岡ハアリ

シカハ暫ク病ト称シ出仕ヲ停メケルカ大剛ノ
 士タルユヘ悠々逼塞セシモ臆スルニ似タリト
 此間長嶋ハ登營シ土方勳兵赤雄久ニ向テ居淳
 言ヲ信セラレ臣等ニ死ヲ賜フハキ由風聞ス重
 善カ討手ハ必ス足下ナリハ覺悟ヲ究メタリ
 トテ短キ脇差ヲ抜テ是ハ銳利無雙ナリト其袖
 ヲ以テ拭テ鞘ニ収ム土方微笑メ今何故ニ貴客
 ヲ誅セザラハキヤ然レモ一雄久討手ヲ蒙ラ
 ハ其脇差ノ柄ニ手ハ掛サスハ許シ荒言ニ及
 ビテルカ果タ明日ハ上巳ヲ祝フニ為ニ鷹ノ捉

ニ雁ヲ料理メ饗應スル中間早朝ニ登營スベシ
ト信雄ヨリ今夕岡田淺井津川ニ命令アリト云
ハ○信雄永祿十一己巳年以來奄藝郡田丸ニ在
城ニ天正八庚辰年田祿ヲ變テ依テ飯高郡松ノ
嶋ニ移リ去年ヨリ素名郡長嶋ニ住居セラル
○三日三老長嶋ニ登營ス時ニ天守ニ附櫓ト
テ庇ノ如キ間ヲ構ヘ信雄ノ寢殿トシ近臣二三
十人ノ外ハ至ルヲ無シ然ルニ同明ヲ以テ餘寒今
朝殊ニ甚シ饗應ヲ賜フヘキ間此席ニ来ルヘシ
ト三臣ヲ召寄テ饗膳ヲ出サル嚮ニ祖父桃巖備後

守信也ヨリ泰巖公信也長ヘ譲ラル南蠻張ノ大砲ヲ
同朋ニ持セテ出サレ誓ク有テ信雄居住ノ天守
ヨリ下テ其席ニ至テ上己ノ賀ヲ述ラル岡田津
川被火砲ヲ一覽シ此筒象眼ニテ美標ナル由ヲ
稱シ時ニ岡田カ着座ト土方勳兵未カ袖候スル
間二疊ヲ隔ツ津川カ居ル処ト飯田半兵未カ扣
ル間四疊ヲ隔ツ是ハ信雄出向ハレハ玄蕃允少
ク跡ヘ退クヘキ歎其節飯田進マハ是ニ間一疊
ニ及バヘキ積リナリ多宮丸ハ未夕此席ニ至ラ
ス土方此筒ヲタメテ見ルヘキ仰ナリト長門守

ニ云フ即チタメル所ヲ二ノ腕ヲ懸テ抱キ止メ短
キ脇差ヲ片手ニ拔テ是ヲ突ハ岡田ハ伏ナカラ
脇差ヲ片手ニ拔テ土方ヲ引立席ノ隅ニ行具時
信雄大左文字ノカヲ以テ土方放セト宣ヘトモ
大事ノ仕物ナレハ愚臣共ニ斬玉ヘト云テ放タ
ス二刀突ナカラ既ニ席ノ隅ニ至ル所信雄頻ニ
放セト宣フ故土方即抛放セハ信雄忽斬止メラ
ル津川カ討手飯田ハ擬議スル間ニ義冬ハ臣モ
又誅セラル歎ト云フ信雄ハ汝モ撃ト吞フ義冬
ハ吾心底知呂玉ハサル歎ト詞ヲ出ス時飯田一

刀撃テ信雄渠ヲ斬止メラル淺井多宮丸ヲハ森
勘解由是ヲ斬ケルカ多宮丸弱年エハ歎少ニ働
ク所忽切留ル當時長嶋ノ營構扉畧ニメ天守ニ
信雄住居ユハ城内ハ此故ヲ知ス躁動セシテ信
雄同朋ニ薙刀持セ道習十二人ヲ携ハ巡視シテ
是ヲ鎮メラル信雄尾品愛智郎星崎勢品榮名郎
松ヶ崎尾州中嶋郎蒔安賀ニ兵ヲ発シ攻入シト
云々岡田カ役者長嶋ヨリ星崎ニ歸リ右ヲ趣テ
長門守カ弟庄五郎善同後年伊勢守ニ任ス告ケルハ家臣
天野五右衛門坂井下総赤川宗左衛門須賀太九

水門同彦次郎同集人喜多野彦四郎星崎ノ城ニ
指籠ル所長門守珠聲山口半左水門重改後年伊豆守
母ヲ長嶋ノ城ニ送リ信雄ニ從ハントス其故ハ
崇元佐久間右水門尉信盛并其子駿河守正勝ニ
任ヘ恩惠ヲ受ル當時駿河守ハ信雄ニ長臣タル
ニ依テ舊好ヲ慕ヒ駿河守ニ據テ信雄ヘ屬セシ
ト欲スル者ナリ長門守カ勇ノ僧良琢怒リテ重
改ヲ城ヨリ追出ス信雄卿長嶋ノ城ヨリ尾品清
須ノ城ニ移リ長嶋ヲハ天野周防守雄光ニ賜フ
○五日 勢品戸木ノ城主木造左水門佐長正松

ヶ嶋ノ城ヲ攻ル城内ニハ斯波兵部佐義管入道
三松軒其弟津川右水門佐入道謙入津川弥太郎
義長等ノ故玄蕃元カ親族且神田清右水門中村
仁右水門佐ニ半右水門接兵富田平右水門知信
以下楯籠リ防戦ス此内三松軒謙入守ハ玄蕃元
カ兄也木造巖ニク攻テ玄蕃元カ伯父弥太郎ヲ
始トシテ城兵百餘人命ヲ殞ス然レモ殘兵尚勇
ヲ勵シ城陷ス
○六日 澁川三郎兵部勝雅松ヶ嶋ニ攻寄扱ヲ
入ル城兵ハ昨日既ニ木造カ為ニ其兵多ク討ル

シカハ即城ヲ渡ス信雄卿ノ旨ニ仍テ前入江島
粟本ノ城主三雲對馬守カ子新左衛門成持其兵
百人許ニテ馳來ル松ヶ嶋ヲ龍川ニ賜リケレハ
三郎兵未則奉丸ノ殿守曲輪ヲ守リ七日市場蒲
田ノ城主日置大膳亮加勢トメ松ヶ嶋ノ間槽ヲ
固メ神君ノ援兵トメ服部半藏正成伊賀ノ砲
卒百人其外伊勢等江島甲賀ノ軍兵等彼是三千
餘人當城ヲ相守ル誠ニ堅固ノ年置ナリ且三郎
兵未兼々勢南ノ諸士ノ質子ヲ取置ケルカ田丸
中務少輔具政九鬼大隅守嘉隆長野左京亮和易

秋山右近光匡沢源六郎芳野宮内等織田上野
カカ勸ニ依テ秀吉ニ屬スト云々

○抑勢列ノ内信雄方ノ城郭ハ南方戸木新美兩

城ニ木造左衛門依楠籠リ小倭衆盛長吉掛山岡福田等

ハ奥佐田ト口佐田兩城ニ據ル船江ニ奉田尤京

河朕谷ニ日置大膳カ從士七日市場ニ其弟治大

夫等楠籠ル北方ハ神戸ノ城ニ神戸共五郎加太

ノ城ニ加太右馬助同左京峯ノ城ニ依久間駿河

守國府次郎其外千草楠持福濱田上木等各領邑

ノ水碓ヲ守リ長嶋ノ城ニ天野周防守薦野ノ城

ニ土方勤兵末尾品海東郡懈江ノ城ニ前田康十
郎アリ其外濃州尾品等ニ信雄方ノ城若若干
リト云々且ツ神君ノ命ニ因テ信雄ノ救トメ
及岡崎ノ城代石川伯耆守其組菊屋ノ水野惣兵
末忠重同藤十郎勝成兵ヲ發シ岡田庄五郎カ尾
州愛知郡星崎ノ城ヲ攻ル城ヨリ輕卒ヲ出シ戰
テルカ敗レ入水野ハ城下矢野五右衛門カ宅ニ
火ヲ發シ根小屋悉ク燒拂時ニ須賀太左衛門等
城中ヨリ突出ル水野カ士鈴木典八郎ト須賀ハ
鎧ヲ合ヒケルカ橋ヨリ下ヘ太左衛門遂ニ突落

カル水野藤十郎進テ天野五右衛門カ持テ口發
地カ嶺ニ攻入久田傳十郎波々伯部十郎三郎岩
村作右衛門先登シ外郭ヲ破リ本城ニ迫ル城中
木村荒川等ノ精射其術ヲ盡シ防ク然ルニ秀吉
ヨリ水野忠重カ許ハ密使ヲ遣テ告ニ屬セハ冬
遠ノ兩國ヲ授クヘキ旨直筆ノ書簡ヲ送ル忠重
即家臣神谷金七郎長直ヲ以テ其書ヲ演松ニ獻
シケレハ御感斜ナラス小島驍ト云良馬ヲ金七郎
ニ賜ク帰ル長久手軍ニ金七郎是上方勢ノ内ヨ
リ星崎ノ城ニ謀者ヲ入レトス御家人ノ内石川

教正カ組大田善大夫吉正教カ所疵ヲ被リナカ

テ是ヲ虜ニス

○七日 神后濱松ヲ御首途 是尾品ハ御奈

○八日 信雄兼テ信長ノ功臣池田森堀等カ人

質ヲ納ラル中ニ池田勝入ハ信長ノ乳母子ニメ

忠厚ノ恩寵他ニ異也殊ニ去年山崎宝寺城築

ノ時故アリテ秀吉ニ恨ヲ含メリ最モ秀吉猶子

秀次ヲ勝入ニ解トス然レモ渠ニ於テハ秀吉ニ

異スヘカラス如斯功臣ノ質子ヲ置ハ却テ其志

ヲ疑ハシムルニ似タリトテ長鳴ノ城中ニ在ル

勝入カニ男三左末門輝政ヲ返シ送ル所ニ秀吉

ヨリ尾藤是右末門知宣ヲ以テ勝入ヲ味方ニ招

キ且弥雄服セハ美濃尾張參河三ヶ國ヲ授クハ

キ皆津田隼人ヲ以テ説シ是ニ於テ勝入カ功臣序

桐半右末門義理ヲ盡シ諫テ信雄ニ從ハシメン

ト欲ス伊木清兵衛ハ秀吉ノ猛威ニ服シ且恩賞

トメ教方國増封ノ慾ニ牽レ強テ秀吉ニ從フハ

キ皆ヲ速ニ初ハ勝入ニ質子ニ心ヲ勞シテルカ三左

末門輝政歸リ来ルヲ以テ遂ニ秀吉ニ屬セント欲シ

堀久太郎秀政森武藏守長可ト相謀テ各五ヶ國

宛賜ラハ味方外ハキ旨ヲ信雄ニ達ス是誠ニ
難題ニ似タリ神君ハモ秀吉ヨリ信雄昏弱ニ
メ治國ノ苦ニ非ズ吾ニ屬シ玉ハ彼方國美濃
尾張ヲ授ケ奉ラシ由ヲ達セラルル神君ハ往年
信雄ノ父信長ト會盟ヲ遂テ互ニ救援ス其舊好
ヲ棄テ吾何ゾ姦賊ノ増封ヲ貪ラシヤト嘲哂セ
ラル信雄ヨリ尾品春日井郡岩崎ノ砦ニ籠置ル
丹羽勘助氏次後武部少輔ニ任スカ方ヘモ秀吉ヨリ今井兼
按ヲ以テ尾州半國ヲ授クヘキ間味方ニ屬スヘ
キ旨ヲ告ル氏次大ニ怒リ吾信雄ニ仕フトイヘ

臣德川ヲ名將ニ屬セシト欲ス豈乱臣ニ與シ
武名ヲ穢サシヤトテ其書牒ヲ擧テ抛ッ檢按戰
慄メ歸ル爰ニ澗川左近將監一益去々年ヨリ三
七郎信孝ニ與シ去年信孝弟柴田亡テ後浪客ト
成リ江州ニ寓居シ僅秀吉ノ扶助五千石ヲ受ク
ル所秀吉ヨリ今度舊領北伊勢五郡ノ信雄方ヲ
攻廢ケ是ヲ安堵スヘキ旨命セラレ一益素ヨリ
信雄ト快カラズ時ヲ得ルト歡ニテ大坂ニ至リ
秀吉ニ謁シ再々江州ニ下リ舊好ノ士ヲ催シ幸
ニ北伊勢龜山関兩城主関万鉄裔其子右兵衛督

一 改後長門守 秀吉方ト成リケレハ再ヒ一益カ
臣佐治新々ヲ援兵トノ龜山ニ篋置一益カ甥龍
川多七郎并瀧川彦次郎法忠ヲ関ノ城ノ加勢ト
ニ其身ハ富田平右衛門知信後左近將監ト相共
ニ壹志郡木造ノ城ニ楠籠リ北伊勢ヲ侵シ掠ン
トス
○九日 信雄ノ長臣佐久間駿河守正勝及山口
長次郎重政五千餘龜山ノ城ニ押寄城下ノ南屋
ヲ放火シ此城ヲ拔ニト容易シトイヘ氏當城要
害ノ池ニ非スメ味方ヘ取テ保テ難キニヘ攻拔

ニ及ス兵ヲ班ス
○勢陽雜記曰神戸ノ城主林典五郎百餘兵
ニテ不意ニ龜山ニ押寄ル城内折節無勢ト
リシカ関方鑓斎老功ノ部將ニヘ其臣葉若
藤左衛門同九郎左衛門岩間八左衛門同七
郎左衛門入道草庵其子典七郎同三大夫同
勳兵部總積喜七郎櫻井吉兵衛井坂傳兵衛
萩孫右衛門豊田新右衛門草川仁兵衛等拾
三人ヲ率テ城ヲ出城下ノ市店ヲ數ヶ所燒
立烟ヲ放レ大敵ノ中ニ突入悉ク追崩ス岩

間三大夫生竹ノ捺物ニテ魁シ功名ス然メ
万鏡有下知シ早ク兵ヲ収メケル時豊田新
右赤門即城門ヲ閉ル寄手重テ城ヲ攻スト
云々畧蒲生軍記ニハ去年信孝方トメ最初
ニ関万鏡奇龜山ニ籠リシ時ノ事ト記ス恐
ラクハ非ナクニ
○信雄ノ叔父織田上野介信兼ハ無二ノ秀吉方
ニテ蒲生忠三郎氏郷ト相謀テ信雄ノ臣佐久間
駿河守正勝カ修築ノ筈ラントスル鈴鹿郡嶺ノ
田墨ハ要害ノ地タリ茲ニ依テ信雄援兵多ク差副

ル旨風聞ス其修補未調ノ内ニ攻抜ヘシトテ氏郷
ヲ首將トメ長谷川藤五郎秀一曰根野備中守弘
就同弥次右赤門瀧川左近將監一益等一万餘兵
嶺ノ城ニ突向ス信雄方飯高郡船江ノ本多左京
亮親康千餘ノ將タリシカ其聲中村仁右赤門秀
吉方ニ屬スヘキ旨勸ルユヘ密ニ志ヲ通スト云
云
○十日秀吉方ノ多勢嶺ノ城ヲ襲フ築營未半
ニメ大敵ヲ防キ難キユヘ城將佐久間駿河守正
勝援將中川勘右赤門雄忠山口長次郎重政関甚

五兵衛小坂助九郎雄吉山岡八郎左衛門景友後
阿弥城外ニ出張シ川ヲ隔テ近合テ數刻ニ及テ
澁川一益カ下知ニ依テ秀吉方一同ニ競ニ進テ
城兵ヲ討破リ其敗卒ヲ追慕ニ附入ニ城ヲ接シ
トセシカニ城方ニ銃兵多クメ城際ニテ大返メ
敬ニニ圍メ秀吉方蒲生家人上坂左文郷可小坂
御喜鎗ヲ合セ岡左内以下首級ヲ得ル堀家ノ長
臣堀監物直政ト山岡八郎左衛門鎗ヲ合セケル
関是五兵衛後殿ノ烈シク戦ニ城際ニテ名村百
右衛門カ為ニ討ル其外城兵三百餘戦没シケレ

ハ佐久間駿河守正勝踏止リ塚ノ上ニ登リ既ニ
自殺セシトセシ處ニ山口長次郎重政馳来リ城
將ハ郭外ニ死セサルモノ也ト諫メケレハ佐
久間等敵ヲ追靡テ郭内ニ還リ入敵忽攻寄ル處
ニ佐久間山口又木戸ヨリ突テ出寄テ追却ク
時ニ尾形海東郡津嶋迄神君ノ先鋒酒井左衛
門尉忠次奥平美作守信昌松平主殿助家忠着陣
スルノ告アルニエハ寄手引退クテ一里餘其夜信
雄方嶺ノ舊城ヲ奪テ尾形ニ帰ル中ニモ中川勘右
衛門雄忠ハ居城丹羽郡大山ニ帰ラントスル處

江尻平左衛門私ノ宿意ヲ以テ路次ニテ中川
ヲ殺害ス

○十三日 神君清洲ニ着御信雄へ御對顔アリ
酒井忠次等侍座不信雄ハ神君ニ謝詞ヲ述且
忠次ニ向テ國家ノ安危此時ナリ偏ニ汝ヲ憑テ
由テ称ス忠次カ曰臣齡頗クトイヘ命ニ隨ハ
シ忠次先鋒ヲラシニハ百万ノ兵ヲ恐ルハ足
ス謀ヲ回シ勝利ヲ得シト必定ト云ク清洲ニ近
キ春日井郡小牧山ハ先年織田信長公居城ヲ築
カレケルカ又是テ破壊シ愛知郡名護屋ニ移リ

其後清洲ヲ以テ居城トセラル此舊壘ヲ敵取敷
ハ尾張ノ國中ヲ眼下ニ見テ渠ニ徳多ク吾ニ損
アリ彼小牧山ヲ以テ神君ノ御陣所トスヘキ
旨榊原小平太康政是ヲ相議スルニ酒井平左
衛門尉忠次近在ツ巡見シ小牧山ノ地ノ利ヲ監臨
シ康政カ考ル處其利アル由テ述ル 神君御許
容アリ今夜池田勝入丹羽郡大山ノ城ヲ拔ク其
故ハ勝入舊領ニ一昨十一日其臣日置三藏ヲ
大山へ遣シ里民ヲ歸シ中川カ横死スル弊ニ乘
シ味方ニ内應シ彼城ヲ吾ニ得サシムヘキ由ヲ

勸ル處郷民是ニ從ヒ人質二人ヲ送ル昨日勝入
教令メ曰明夕東美濃ニ働クヘシ然レモ當日可
歸陣間腰兵糧ヲ用エヘシト云ニ然メ今十三日
ノ夜引違テ勝入父子宇留馬川邊ニ至リ暫ク猶
豫ス東美濃ハ働ク
ト云ハ謀計也兼テ獵船廿艘用意シ大豆戸
ノ渡リマテ遣シ置ケレハ戌ノ刻ニ及テ池田紀伊
守之助等是ニ來テ川ヲ涉シ朦朧タル夜ヲ幸ト
シテ大山ノ城坂下水ノ手口ヨリ急入固ヲ突シ
ケレハ城中大ニ周章ス中川勘右衛門カ伯父清
藏主ト云禪僧勇ヲ頭シ從卒數輩ト共ニ命ヲ殞

ス遂ニ勝入大山ノ城ヲ抜テ大ニ悦フ往古ヨリ
云傳フ上方ヨリ尾州へ責入ニ西口ヨリ向フ時
ハ勝一寡シ大山口ヨリ向ハ勝利アルト多シ
ト然モ今度信雄ノ功臣沢井左衛門尉ハ西口黒
田ノ城ヲ守ル之ニ依テ大山ヲ抜時ハ必勝最モ掌ス
中ニ在リト勝入大ニ悦フ是日秀吉ヨリ越前加
賀若狹三州ノ太守丹羽越前守長秀カ方へ一簡
ヲ贈ル其趣ハ足下分國ノ手置肝要ナリ且其附
庸加易金沢ノ城主前田又左衛門利家ニ援兵ヲ
遣シ渠ヲ以テ佐ニテ壓ヘンテ懈ルハカラズ近

日秀吉軍ヲ尾州ニ聚スヘシ蜂須賀彦右衛門家

改後阿波守其兵二千ヲ以テ大坂ノ留守トシ泉州

岸和田ノ城ニハ兼テ中村式部少輔一氏三千ヲ

以テ守ラシムトイヘシ根来雜賀ノ賊徒大坂ヲ

伺ントスルニハ蜂須賀小六至鎮彦右衛門ノ嫡子也後阿波守

前野將右衛門長康後但馬生駒甚助正俊後雅永

黒田吉兵衛長政時三十四歳後甲斐守播磨ノ赤松明石泉

州ノ松浦安大夫宗清寺田間鍋桑原等六七十七

以テ援兵トシ城州淀ニ松岡九郎次郎小野木清

次郎重勝後縫殿江州勢田ニ長岡越中守忠貞同

州甲賀ニ堀尾茂助吉晴後帶木村小集人重茲又

筒井順慶伊藤掃部助治時ハ和州ノ秋山沢芳野

等カ質人ヲ取テ勢兵ヘ向ハシム江州赤山ニ羽

柴美濃守秀長草津ニ於次九秀勝永原ニ三好孫

七郎秀次高山右近友祥中川藤兵衛秀政氏家内

膳正行廣一万四五千是ヲ以テ美濃口ノ後誥ト

シ勢兵ハ蒲生長谷川加藤一柳山崎源太左衛門

行家淺野弥兵衛長政後彈正及甲賀ノ士ヲ差遣

ストイヘシ尚ニ其勢不足ニ於テハ森山草津ヨ

リ是ヲ援フヘキ旨ヲ教令ス西國山陽道ノ塵ハ

ニハ浮田秀家備前美作因幡勢ヲ以テスト云
○淺井多宮丸討レ其臣菊安賀ノ城ヲ守リテルカ
遂ニ陷ル彼城ヲ信雄ヨリ森勘解由ニ授ク粵ニ
神君ハ信雄ニ方國城主ノ人質ヲ納玉フヤト問
ハセ玉ヘハ信雄ハ大畧譜代ノ臣殊ニ大祿ニモ
非ス昵近セシ者共ナレハ質子ヲ納メスト答ヘ
ラル 神君ハ此時節縁昵舊臣トイヘヒ油断
アルヘカラス早ク人質沙汰アルヘキ旨勸メ玉
ヘハ信雄即チ安井將監ヲ以テ最初ニ森勘解由
カ質子ヲ求ム森カ曰ク予ガ如キ臣下ヲ疑レハ

清洲ノ城ハ保ルヘキ歎ト怒テ質ヲ出サス又安
井ハ黒田ノ城ニ赴キ沢井左衛門尉カ質子ヲ求
ム沢井カ曰籠城ニ婦女小兒ヲ置クハ害アリテ
益ナシトテ忽妻子ヲ渡シ其上足下ハ姻家ナリ
延慮スルニ足ラス籠城ノ前勇士一人モ惜ムハ
ケレハ從者ヲ副ルニ及ハスト云ヘリ世舉テ沢
井ヲ祐美ス
○是日 越後國主上杉景勝春日山ヲ祭シ信州
ニ旗ヲ進ム是ハ 神君ノ麾下小笠原右近大夫
貞慶調略ノ同州小味ノ城主小味丸兵衛ヲ味方

成シ今既ニ景勝ニ屬スル川中嶋四郎ヲ反覆
セシト企ルコト露頭スルユハ景勝則小味ヲ擊
之スヘキ為ナリ是ニ景勝ノ幕下須田左衛門尉
豫シメ後兵五十二騎ヲ以テ不意ニ小味ノ城郭
ニ攻入ニ百五十餘人ヲ麤ニシ左兵未ダ慮ニシ
畢シヌ

○十四日 池田勝入大山ノ城ニ遷ルト聞テ稻
葉一鏡援兵トメ大山ニ至ル柳元龜ノ初信長犬
山ノ城地一万貫ヲ勝入ニ賜テ即修補セシメ是
ヲ居城トスル所ニ根柢ノ荒木退治トメ勝入彼

地ニ長陣シ軍功莫天ニメ敵ノ闕地尾ヲ崎花態
茨木邊ヲ増封アリテ天正九年己未ハ大山ヲ
モ抱ヘ持ケルカ信長ノ四男源三郎勝長ヲ勝入
カ聲トシ大山ノ城ヲ讓附シテ此處翌年本能寺
ノ變ニ勝長モ命ヲ殞シ尾及一圓ニ北畠信雄ノ
領知ト成勝入ハ濃州岐阜ヲ領シケルカ今度再
ヒ大山ヲ拔テ是ヲ居城トシ岐阜ヲ秀吉ハ獻ス
ト云ル 神君ヨリ酒井忠次松平家忠等勢州衆
名ハ軍ヲ免ス又ハ神君ヨリ信雄ノ臣久保勝正
ニ尊簡ヲ賜フ

奉章之披見ハ仍之者 予亦意之也 此海峽也
○十五日 秀吉方蒲生氏郷織田信弟筒井定次
九鬼大隅守嘉隆田丸中教少輔具政因安藝守入
道万鏡存父子岡本下野守宗憲武衛治部大輔義銀入
道三松軒津川右衛門佐入道謙入一族郎位等多勢
勢州松ヶ嶋ノ城ニ向テ當城ハ勢陽ノ要地ニメ
信雄初テ築キ玉ニ墨湟巖整ニメ城將ハ大剛ノ

滝川三郎兵衛且後將トメ日置大膳亮ト神尾
ノ隊長服部半藏正成等ノ選兵三千人ヲ籠置殊
ニ國士等カ質子ヲ奉九ニ衛護ス中ニモ船江ノ
城主本田左京親庸次郎親常カ後流也カ愛子千勝九時ニ
歳ニ當城ニ在リケルカ左京亮ハ信雄ヲ叛テ内
ニ寄手ニ志ヲ通スル故甚ク嘆激シ其臣高嶋次
郎右衛門ヲ松ヶ嶋ニ遣ヒ是ヲ盗出スル計策
ニ及テ次郎右衛門稻麻竹葦ノ如ク打圍ム松ヶ
嶋ノ城邊ニ忍事ヲ干奉方若シ郭内ニ入奉田左
京ト日置大膳ハ相聲ユルニ勝九カ最期ヲ見届

ハキ為ニ忍入旨日置ニ相断テ被隊ニ属シ持口
ノ衛兵ニ加シテ虚ヲ量リ千勝丸ヲ携ヘ奔テ
一ヲ計ハ

○十六日 兼テ柳原康政ガ諫ニ如クハ神君小
牧山ヲ以テ御本營トセラルヘキニ依テ今黎明
康政彼山ニ至リ相因リ烟ヲ揚ケシハ神君忽
小牧山ニ御動座アリテ整々ノ陣ヲ設ケ柵ヲ附
テル峯高カラヌ小山ナレハ諸軍大畧麓ニ屯
ケル秀吉ガ方ニモ智ニ 神君清洲ニ着 御ノ告
アリケレハ松ヶ嶋ノ寄手蒲生氏郷長谷川秀一

加藤作内光泰ヲ尾及ニ招カルトイハレ其餘尚
数万ノ多勢タルニエハ松ヶ嶋ハ押寄筒井勢先登
メ町店ヲ放火シ諸侍ノ宅ヲ追補シ本外郭ニ在
テ三ノ丸ニ引取サル士卒少ニ撃捕ラル處ニ獲
将日置大膳逞兵ヲ率テ突テ出惣曲輪ノ中へ乘
入シ敵ヲ追散スフ風ノ草ヲ偪スカ如シ織田信
兼カ放火ノ餘烟殿守ニ移ラントセシテ城將龍
川三郎兵衛カ士中津志摩ハ殿守ニ登リ是ヲ消
止ルト云々其後諸勢堀際ニ仕寄竹策ヲ附ル
○是日 拂曉ニ信品深志ノ城主小笠原右近大

夫貞慶小味ノ城後援ト人鳥居峠ニテ馳来ルト
イヘニ城陥ルニ至ヘ軍ヲ班ス景勝ハ小味ニ至リ
左兵亦ヲ城下ニ磔ニシ須田カ功莫大也トイヘ
トモ軍令ヲ背シテヲ譴メ其領邑三分ニヲ減ス
ト云々時ノ人許メ曰上杉家三軍ノ道古今ニ超
越シ武田家ト優劣ヲ争フトイヘ各法律嚴酷
ニ失スルニエヘ敵國威風ニ靡テニ似テ實ニ服スル
ト無シ須田カ如キ忠ヲ竭メ祿ヲ削ラレ遂ニハ
景勝ニ叛クニ至ル戦世ニハ殊ニ法令ノ嚴密ヲ
宗トストトイヘ甚シキ時ハ又禍ヲ生スト云々

○十七日 松カ嶋ノ城ヨリ日置大膳亮軍ヲ不
意ニ發シテ筒井家ノ陣ヲ攻撃テ從兵大ニ驍戰
メ功ヲ顯ス

○十八日 日置大膳亮又突テ出勇ヲ奮フ當城
内ニハ 神居ノ銳士服部鬼半藏正成伊賀ノ士
ヲ率テ楠籠リシカ同シク城外ニ突ニ驍戰ス

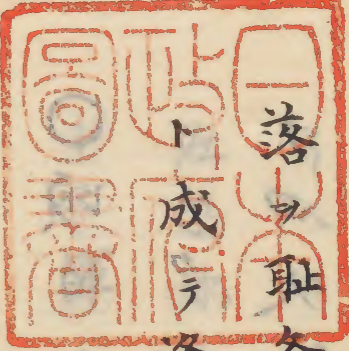
○頃日 今川義元ノ甥伊豫守氏詮當時遊客ナ
リシカ 神居ヨリテ謁ヲ執セ其子アル歎ト尋玉
フ四人ノ男子ヲ儲クル者言上セシカハ皆御家
人ニ列セララルヘキ旨 命アリ後遂ニ氏詮カ衆子源



五郎正勝半右衛門定國小源某ヲ名出サレ其零

落_レ耻_レ各家號_レ瀨名_ト称_ス殘_ル一人ハ修驗者

洛陽_ト勝仙院_ト任職_ス其_ト云_レ云_レ云_レ云_レ云_レ



○未_レ入_レ日_ト登_レ民_ト族_ト其_ト云_レ云_レ云_レ云_レ云_レ

○未_レ入_レ日_ト登_レ民_ト族_ト其_ト云_レ云_レ云_レ云_レ云_レ

○未_レ入_レ日_ト登_レ民_ト族_ト其_ト云_レ云_レ云_レ云_レ云_レ

○未_レ入_レ日_ト登_レ民_ト族_ト其_ト云_レ云_レ云_レ云_レ云_レ

○未_レ入_レ日_ト登_レ民_ト族_ト其_ト云_レ云_レ云_レ云_レ云_レ

○未_レ入_レ日_ト登_レ民_ト族_ト其_ト云_レ云_レ云_レ云_レ云_レ

